

軽自動車の構造変更について

軽自動車については道路運送車両法施行規則別表第1号により

自動車の種類	自動車の構造および原動機	自動車の大きさ		
		長さ	巾	高さ
軽自動車	二輪自動車（側車付二輪自動車を含む）以外の自動車および被けん引自動車で自動車の大きさが右欄に該当するもの（内燃機関を原動機とする自動車にあってはその総排気量が0.360リットル以下のものに限る）	3.00m以下	1.30m以下	2.00m以下

(表中必要欄のみ抜萃)

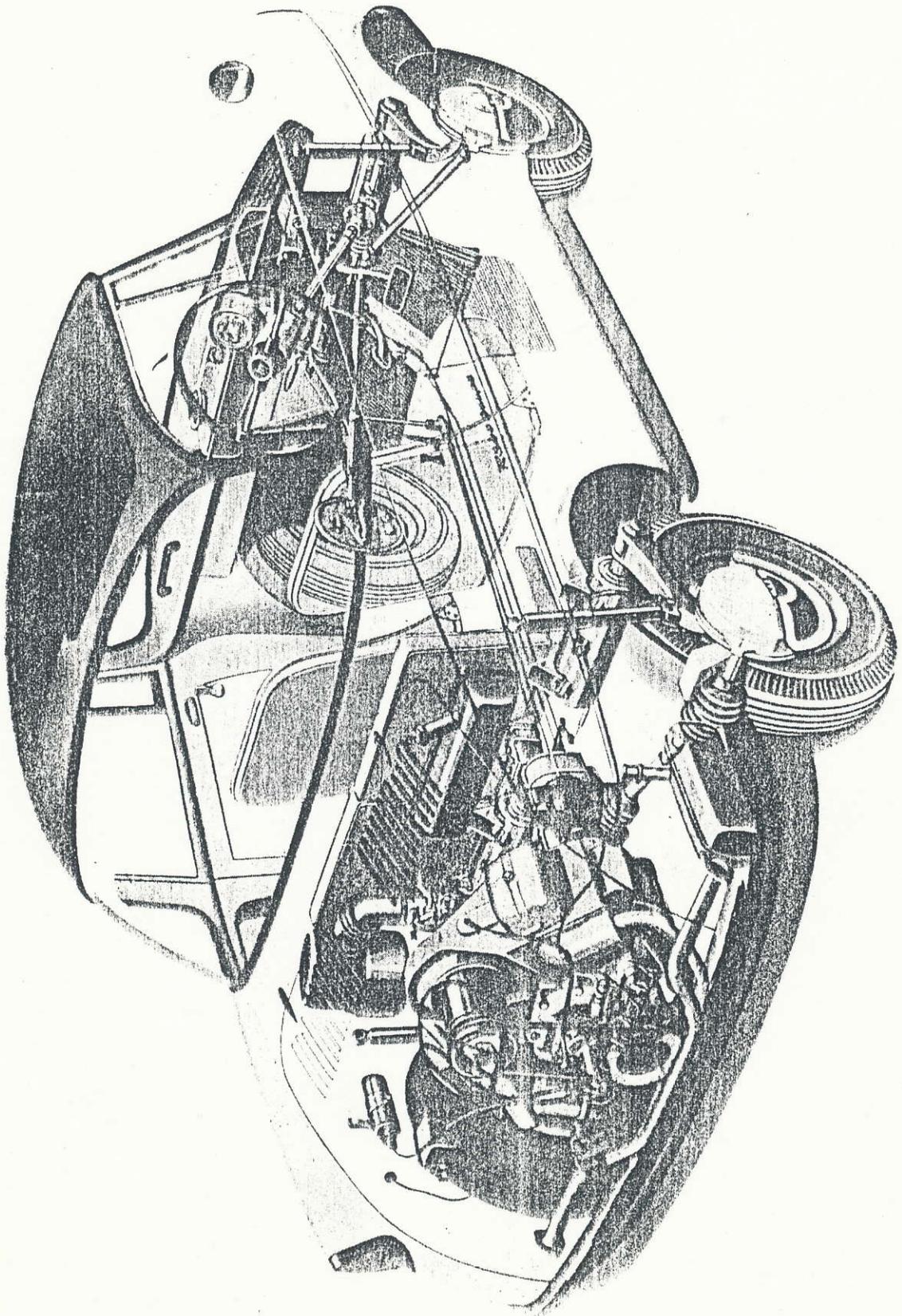
と規定されています。

自動車の種別の変更を伴うような構造変更（上記表寸法および総排気量360ccを超えるもの）を行なった際は関係官庁に対して正規の手続きを行わないまま使用しますと検査、登録、届出制度に対する違反および運転免許、税制等の関連制度にも違反することとなりますから、この種の構造変更については先分な注意をお願い致します。

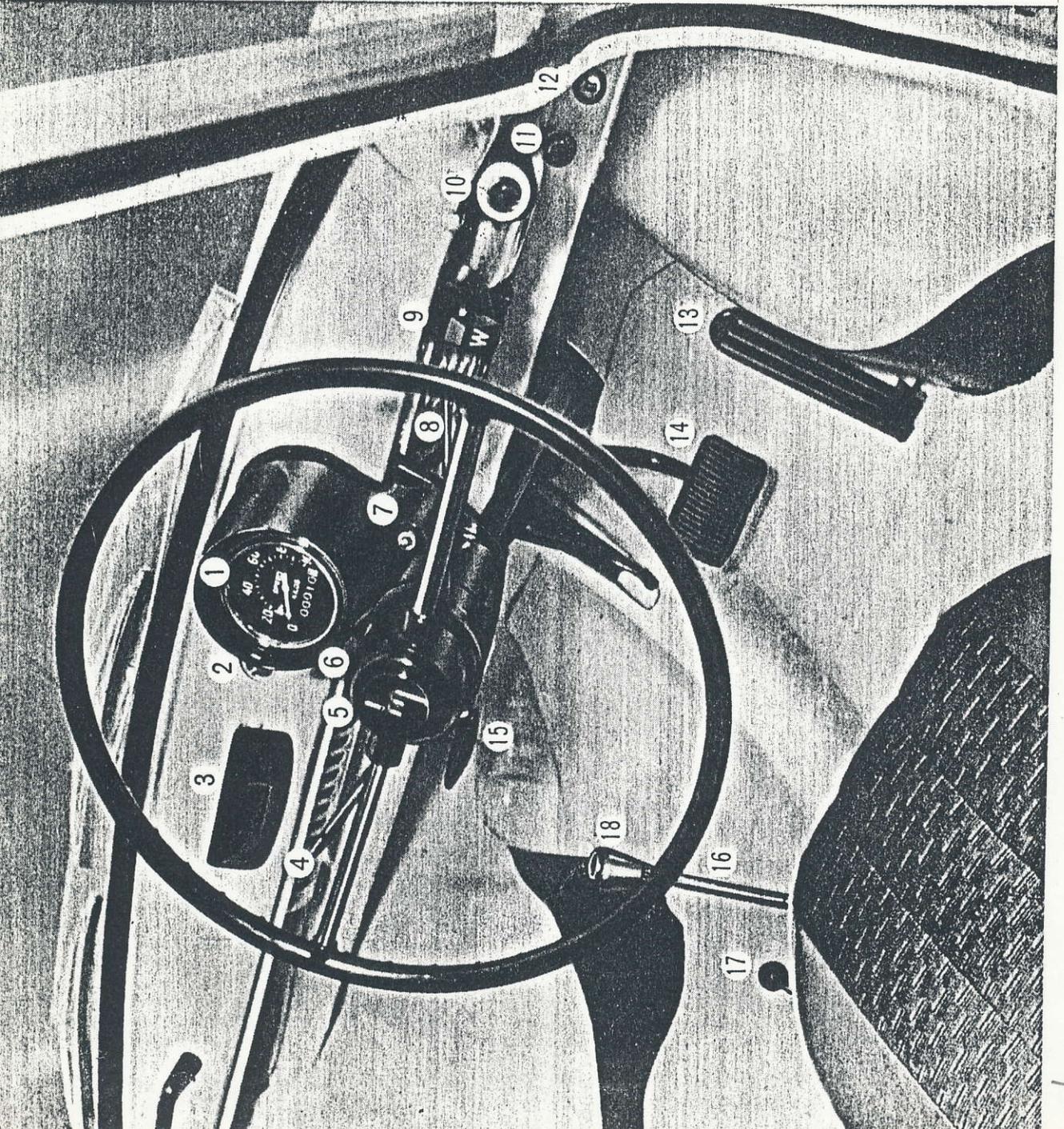
各部の説明.....	5	ボンネットレリーズボタン.....	6	エンジンブレーキクラッチレバー.....	8
エンジンスイッチ.....	5	ホン.....	6	チョークボタン.....	8
イグニッションスイッチ.....	5	方向指示レバー.....	6	ルームランプ.....	8
スターチングスイッチ.....	5	ライトスイッチレバー.....	7	シート.....	9
ワイパースイッチ.....	5	ハンドブレーキレバー.....	7	サイドドアのロック.....	9
スピードメーター.....	5	ベンチユレーションレバー.....	7	エンジンカバーロック.....	9
ダイナモワーニングランプ.....	5	アクセルレターペダル.....	7	電気式フェューエルポンプ.....	10
オイルプレッシャーワーニングランプ.....	6	ブレーキペダル.....	8	ガソリン切替ボタン.....	10
トルコンオイルサーモメーター.....	6	チェーンジレバー.....	8	スタートコントロースイッチ.....	10

各部の点検と整備.....	19	指定オイル.....	22
給油箇所一覧表.....	24	トルコンポンプター.....	25
整備.....	26	スロアの調整.....	26
エアクリナー.....	26	油圧の調整.....	27
ガソリンストレーナー.....	28	トルコンオイルター.....	28
オイルフィルター.....	28	ブレーキの保守.....	29
ホイールの取りはずし.....	30	ディストリビューター.....	31
スパークプラグ.....	31	バッテリーの保守.....	32
配線図.....	33	故障の原因と点検箇所.....	34
水洗い.....	36	諸元一覧表.....	38

運転.....	11
始動前の点検.....	11
エンジンが冷えているときの始動.....	13
エンジンが暖まっているときの始動.....	14
発進.....	14
停車および駐車.....	15
後退.....	15
登坂.....	16
降坂.....	16
経済運転.....	17
新車の乗りならし運転.....	18



- 1) スピードメーター
- 2) トルコンサーモメーター
- 3) 灰皿
- 4) ライトスイッチレバー
- 5) ホーン
- 6) オイルプレッシャー
ワーニングランプ
- 7) ダイナモ
ワーニングランプ
- 8) 方向指示レバー
- 9) ワイパースイッチ
- 10) エンジンスイッチ
- 11) ホンネット
レリーズボタン
- 12) ガソリン切替ボタン
- 13) アクセレレーターペダル
- 14) ブレーキペダル
- 15) ハンドブレイクレバー
- 16) チェンジレバー
- 17) エンジンブレーキ
クラッチレバー
- 18) スタートコントロール
スイッチ



メーター

ナーモメーター

エンジンスイッチ

エンジンスイッチはイグニッションスイッチとスターチングスイッチと兼用です。

スイッチレバー

イグニッションスイッチ

スイッチにキーをさし込み、右に一段廻すと点火回路、パイロットランプ回路などに電流が通じます。

エンジンランプ

スターチングスイッチ

エンジンランプ

キーをイグニッションスイッチの位置からさらに右に廻せば、スターチングスイッチが作動してエンジンを始動させることができます。キーを放せば元の位置に戻ります。

スイッチ

エンジンが始動したら即時キーを放して下さい。長時間スイッチを入れてはいけません。(連続10秒まで)

スイッチ

リリースボタン

ワイパースイッチ

電源ボタン

このボタン⑩を引けば電動式モーターによりワイパーが作動します。

スターペダル

プレートは運転席と補助席の両方においてリンクによって連動します。

ダials

スピードメーター

指針は走行速度(料/時)を示します。また下方のオドメーターは走行した距離を料で表します。

キーレバー

キーレバー

ダイナモワーニングランプ

キーレバー

イグニッションスイッチを入れると、黄色のランプが点灯します。エンジンの回転が上りダイナモワーが充電しはじめると消えます。これによって充電状態を簡単に知ることができます。

スイッチ

【オイルプレッシャーワーニングランプ

イグニッションスイッチを入れると赤色のランプが点灯します。エンジンが始動するとランプが消えます。

走行中は消灯しておれば正常な状態で、もし赤ランプが点灯するようでしたら「油圧が低いかオイルが不足して危険です」と警告しているのですから原因を調べて修理しなければいけません。

【トルコンオイルサーモメーター

サーモメーターはトルコン油の温度（摂氏）を示します。

走行中とはときどき指針の位置に注意して下さい。（運転の項参照）
エンジンスイッチを断にした場合、指針は右端で静止します。

【ボンネットレリーズボタン

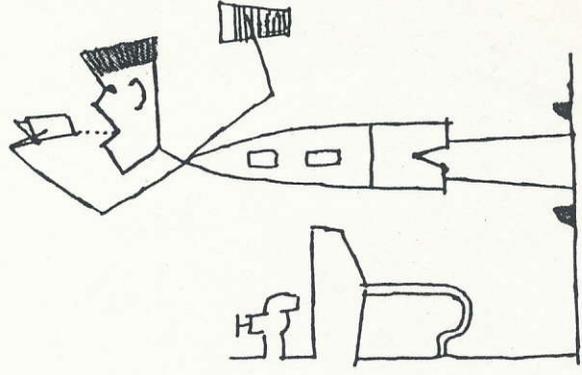
ヒューズボックスの点検、バッテリーの点検あるいはガソリンの補給、点検などのためにボンネットを開く場合は、このボタンを引くとボンネットのキャッチがはずれ、ボンネットを開くことができます。

【ホーン

押しボタン式ですからハンドル中央のボタン^④を押して下さい。

【方向指示レバー

方向指示器はフラッシュャー式で、レバーを上方に上げると左側が下方に下げると右側のインジケーターランプが点滅します。点滅している間はブザーでその状態を知らせます。



ライトスイッチレバー

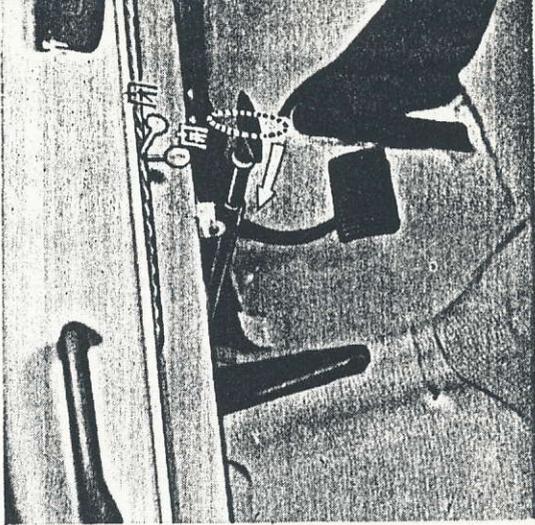
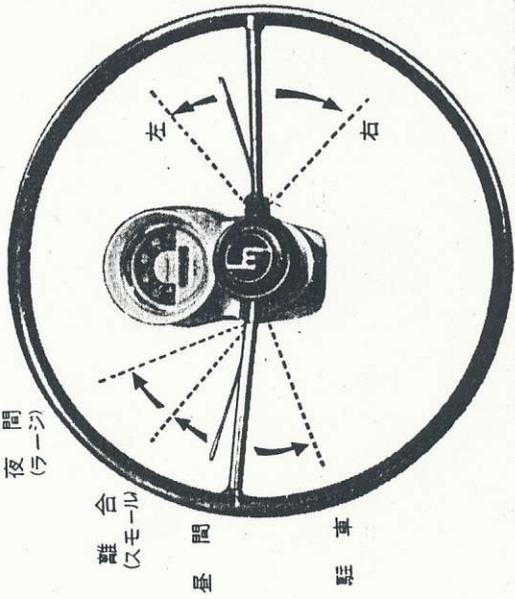
ライトスイッチの作用はつぎのようになっております。

レバーの位置	点灯	箇所	備考
水平の場合	なし		昼間走行用
下げた場合	サイドランプ	テールランプ	夜間駐車用
1 段上げた場合	ヘッドランプ(スモール)、	ナンバー、テール、サイド	夜間離合用
2 段上げた場合	(ラージ)		〃 走行用

ハンドブレーキレバー

レバーを引くと機械式に後2輪を制動します。駐車中はレバーを引いて制動しておき、発進のときには必ずレバーを縦に起して押戻すことを忘れないようにして下さい。

ベンチュレーションレバー
このレバーを下げると、シヤッターが開き、新鮮な空気が運転席の足もとに入ります。



アクセルレターペダル

このペダルを踏み込む量によってエンジンの回転数が増減して車の速度が変化します。ペダルはいつも徐々に踏み込むようにし、急激に踏み込まないようにして下さい。

ブレーキペダル

ペダルを踏み込むとオイルブレーキが作用し、完全な制動作用をします。ブレーキを濫用するとライニングの摩耗を早めます。

チェンジレバー

チェンジレバーは前進2段、後退1段となっております。

エンジンブレーキクラッチレバー

長坂路の降坂、あるいは制動の際スリップの恐れがある場合、このレバーを後に引けば引くとエンジンブレーキが効きます。

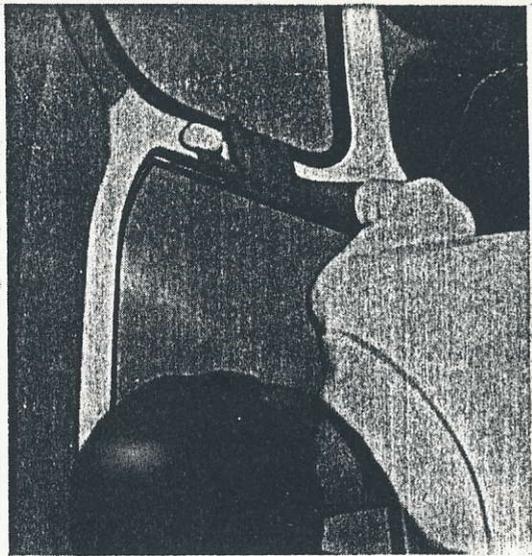
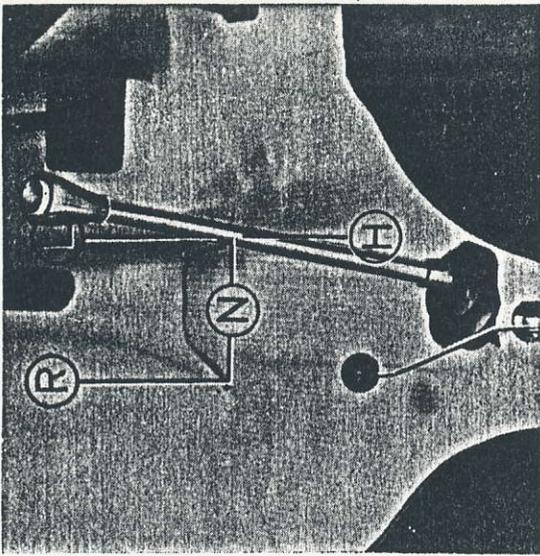
エンジンブレーキを必要としなくなれば必ずレバーを元の位置に押し戻しておくことが大切です。(操作要領は運転の項参照)

チョークボタン

◎ボタンを引くとエンジンに吸入される空気はキャブレターのチョークバルブによりコールドロールされるので混合ガスは濃厚となります。したがって寒冷時やエンジンが冷却しているときに使用すれば、エンジンが容易に始動します。

ルームランプ

運転席の右後部上方にルームランプが装着されていますので夜間何かと便利です。



シート

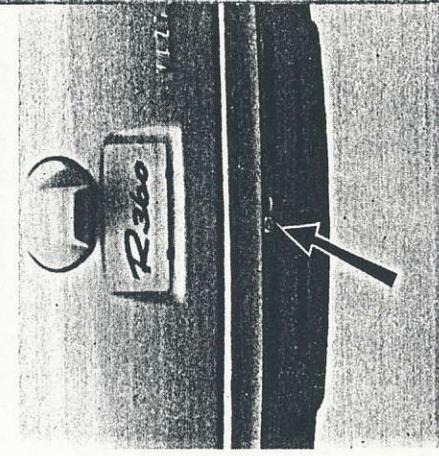
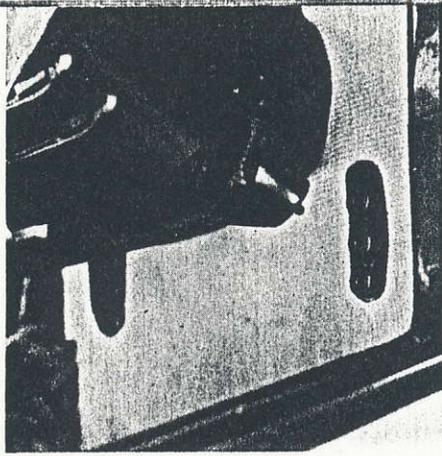
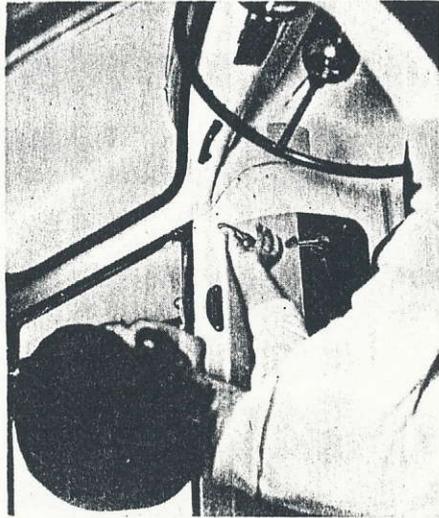
フロントシートは左右ともあなたのお好きな位置に簡単に調節できます。シートの後部を上げて3つの穴に随意に差込んで下さい。

サイドドアのロック

左側のドアの内側にはインサイドハンドルがあり、ドアを完全に閉めた後ハンドルを前方に倒せば外からは開かなくなります。右側ドアは外側のキー穴にキーを差込み、半回転するとドアは開かなくなります。車を離れるときには盗難予防のために必ずドアをロックしておきましょう。なお、ドアロックはイグニッションスイッチのキーと共用です。

エンジンカバーロック

エンジンカバーはイグニッション、サイドドア共用のキーで鍵をかけることができます。潤滑油、エンジンなどの点検のためにカバーを開くときは、キーを差込み右に廻していったんキーを引抜いて下さい。つぎに中央部が、ボタンになっていきますからボタン部を奥に押せばキャッチがはずれカバーが開きます。



電気式フェューエルポンプ

イグニッションスイッチを入れると、ポンプが作動して適当な燃圧でキャブレターに燃料が送られますから、エンジンの始動が極めて容易となります。また、エンジンの回転が停止したときや、スイッチを入れても始動が見合せているときなどには、ポンプのみは常に作動しておりますから、スイッチを早目に切るように注意して下さい。

ガソリン切替ボタン

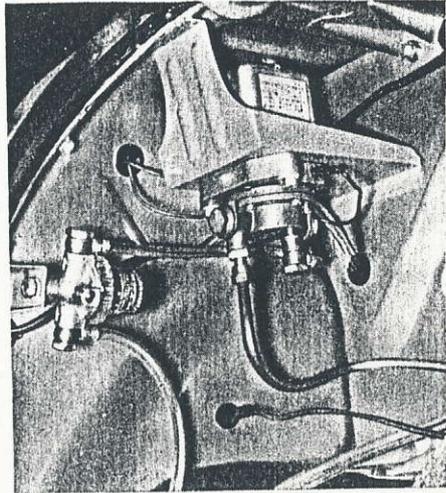
常時運転中はダッシュの右下にあるⒺボタンを戻した位置にしておき、もし運転中燃料がなくなつたときには、このボタンをいっぱいに出せば残りの2〜3ℓのガソリンが使用できます。

もし走行中に燃料がきれた場合、給油所まで運行することができ、早目に燃料の補給ができるので、途中で立往生する懸念がありません。

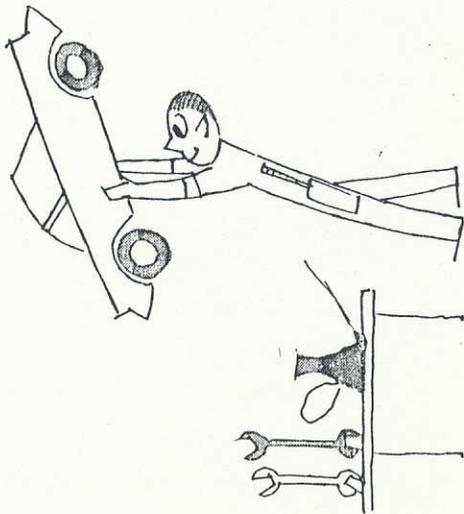
スタートコントロールスイッチ

スタートする場合にこのスイッチを押すとエンジンレバーが非常に軽く操作できます。操作が终れば、速かにスイッチから指を離さないで無駄な電流を消費しますから、5秒以上スイッチを押し放しにしないよう注意して下さい。

また走行中変速するときはスイッチを使用することは避けて下さい。



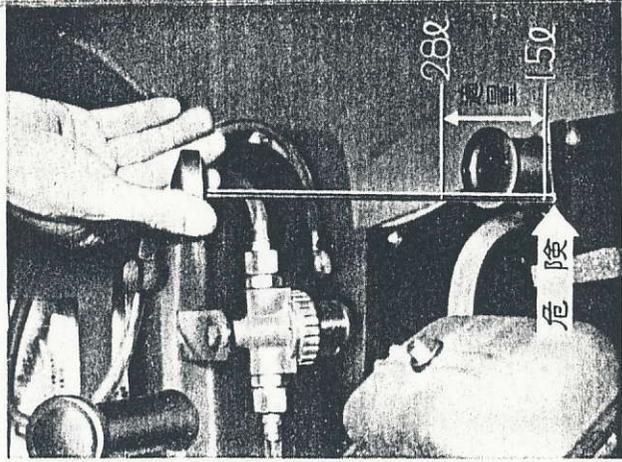
自動車を運転する前には法令で定められている仕業点検（各部の点検と整備の項参照）を行なわねばなりません。エンジンを開始する前には必ずつぎのことも点検して下さい。

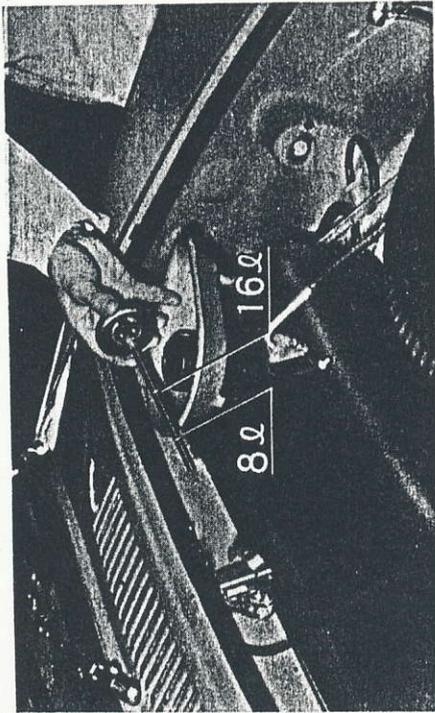


始動前の点検

オイルタンクの油量

オイルタンクの油量がレベルゲージの上下2本の線間にあるか確認して下さい。油量はゲージの上側の線で2.8ℓ、下側の線で1.5ℓを示し、油量が少ないと過熱、焼付、摩耗の原因となります。また油漏れがないか油質が変化していないか点検しましょう。



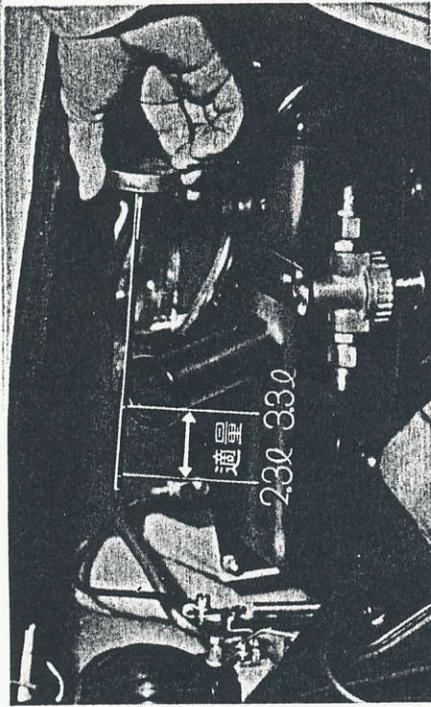


ガソリンタンクの油量

ガソリンタンクの容量は 16ℓ で、ガソリンの量をレベルゲージによって確認して下さい。油量はゲージの上側の線で 16ℓ、下側の線で 8ℓ を示しています。またガソリン漏れはないか点検しましょう。ガソリン漏れは燃料の不経済だけでなく、火災の原因となります。

トルクコンバーターの油量

オイルタンクの油量がレベルゲージの上下 2本の線間にあるか確認して下さい。油量はゲージの上側の線で 3.3ℓ、下側の線で 2.3ℓ を示しています。油量が少ないとコンバ



ーターへ空気が吸入されて性能の低下、油の過熱、その他故障の原因となります。

また油量の減りが多いときは、油漏れがないかもよりのサービステーションに点検させて下さい。

エンジンブレーキクラッチレバーの位置

クラッチレバーがフリーの位置にあるか確かめて下さい。

チェンジレバーの位置

チェンジレバーが中立の位置にあるか確かめて下さい。

ハンドブレーキ

ハンドブレーキが確実に掛っているか確かめて下さい。



タイヤの空気圧力

運転の際は常にタイヤの充填、空気圧力に注意して下さい。空気圧力の適否はタイヤの寿命だけでなく、操舵性能にも大きな影響を及ぼします。

タイヤサイズ	空気圧力kg/cm ² (ポンド)
前輪 4.80-10-2p (ELP)	0.85 (12)
後輪 4.80-10-2p (ELP)	1.4~1.7 (20~24)

エンジンが冷えているときの始動

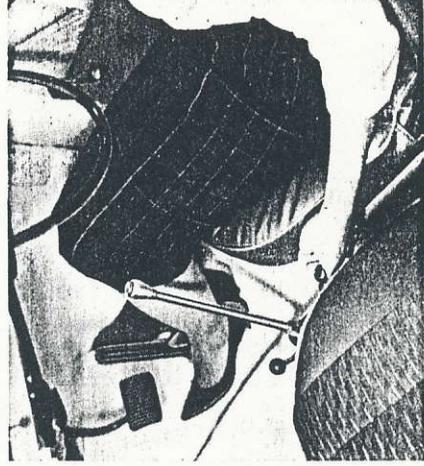
キースイッチを右に一段廻して下さい。
電気式フェーモルポンプが作動してガソリンをキャブレターに送ります。
もし、フェーモルポンプの作動音がしているときは、作動音が止まるまで始動は待って下さい。

ダイナモ、オイルプレジチャーワーニングランプが点灯していることを確認して下さい。

特に冷寒時はチョークボタンをいっぱい引いて下さい。
チョークバルブとスロットルバルブはリンクにより連動されていてチョークボタンを一杯引くとスロットルバルブは始動しやすい状態に開きますのでアクセルレターペダルを踏まないでも始動できます。

外気温の変化によって適宜チョークを加減して下さい。

キースイッチをさらに右に廻して始動します。



- ☐ エンジンの始動が万一困難な場合でもスタータースイッチを連続10秒以上入れっぱなしにしないでください。始動困難な場合は5秒間ぐらいい休止して再びスイッチを入れるようにして下さい。連続使用はバッテリーを甚しく消耗します。
- ☐ 始動困難な場合はアクセルレターペダルをわずかが踏んで下さい。
- ☐ エンジンが始動すると、チョークバルブについているポペットバルブが自動的に開き適度の空気を送りオーバーチャージを防止するようになっていますが、エンジンが暖まりアイドリングが続くまでチョークボタンで加減しエンジンの温度が十分暖まり正常なアイドリングが続くようになると、チョークボタンを徐々に完全に押し込んで下さい。
- ☐ チョークバルブが少しでも閉じた状態で連続運転すると、燃料消費が非常に増大しますので注意して下さい。

エンジンが暖まっているときの始動

- ☐ チョークボタンの操作は必要なく、アクセルレターペダルをわずかに踏んで始動します。
- ☐ もし、吸込み過多でエンジンが始動しない場合は、アクセルレターペダルをいっぱい踏み込んで始動します。始動したら徐々にペダルより足を離して下さい。
- ☐ エンジンが始動したら、エンジンの回転状況、排気ガスの状況、油圧（ワーニングランプの消灯状況）、ダイナモの発電状況（ワーニングランプの消灯状況）、に注意して下さい。

発 進

- ☐ エンジン始動後急激なレーンジング（空ふかし）は慎んで下さい。また、エンジンが十分暖まった後にスタートしましょう。
- ☐ チェンジレバーを操作する前にスタートコントロールスイッチを押してレバーを④レンジにシフトして下さい。



間

クを
り正

- チェンジレバーをシフトしたらスタートコントロールスイッチから速かに手を離して下さい。
- つぎにブレーキペダルを踏んでハンドブレーキを戻します。
- ブレーキペダルを離し、アクセルレターペダルでエンジンの回転をあげると車は静かにスタートします。速度はアクセルレターペダルの踏み加減で自由にコントロールすることができます。
- もし④レンジでスタートした場合は、アクセルレターペダルを放して回転の落ちたところで⑤レンジに静かに切替えて下さい。この場合スタートコントロールスイッチを押すことは避けて下さい。
- 車が砂地、またぬかるみにはまり込み込んだ場合は、アクセルレターペダルを放して回転を落とし⑥レンジに切り替えて下さい。
- カーブするときは見通しがきかないので、状況に応じて車の速度をおとし、後輪は前輪より内側を通るので余裕をもって進行しなければいけません。またカーブで急激にアクセルレターペダルを踏み加速することは避けて下さい。
- 見通しの悪い濃霧では、スピードを出したり追越しは絶対禁物ですから、徐行しながらホーンを鳴らすかヘッドランプを点灯して車の存在を知らせます。

たら

停車および駐車

- 停止するときは、アクセルレターペダルを放して静かにブレーキペダルを踏みます。
- 車を痛めないためには、緊急の場合のほかに急ブレーキをかけることは避けて下さい。
- 車が停止したらチェンジレバーを中立にしてキーをはずし、ハンドブレーキを引いて自然に車が移動しないよう処置をしておきましょう。

後退

- 車を後退させるときは、まず車の後方に障害物などがないかを確かめておきましょう。
- 完全に車が停止してからスタートコントロールスイッチを押して後退⑧にシフトして下さい。
- 後退の際あまりスピードを出しますと運転を誤るもとですからご注意ください。



登 坂

普通の坂路では④レンジのままでも登坂できます。登坂中はサーモーターの指針に注意して、もし指針が黄色のレンジに入り続いたら、早目にアクセレレーターペダルを放してチェンジレバーを④レンジにシフトして下さい。

指針が黄色のレンジに入っても続いて上昇しなければ⑤レンジのまま走りつつかえませんが、急な坂路やカーブの多い山道にさしかかったらできるだけ④レンジで登坂した方が、登坂力が大きく、燃料も経済的です。

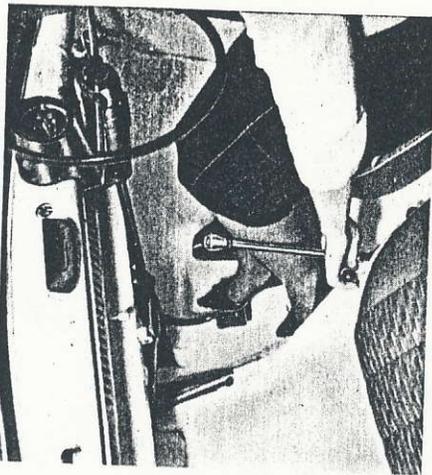
万一指針が赤色のレンジの右端に振切るとしたら長時間連続運転を避けて下さい。このように油温が異常に上昇する場合は、トルエン油の不足か、エアアの混入などが考えられますから速かに点検する必要があります。

降 坂

長坂路の降坂などで特にエンジンブレーキを作用させたいときは、坂の状況に応じて④レンジにシフトしてチェンジレバーの後方にあるエンジンブレーキクラッチレバーをいっぱい後ろに引いて下さい。④レンジにシフトしただけではエンジンブレーキは効きません。この場合、ブレーキを軽く踏んでレバーを引けば簡単に切り替えができます。

レバーを引いてエンジンブレーキの状態では変速が困難ですから、エンジンブレーキを必要としなくなれば、必ずレバーを前方に押戻して解放して下さい。この場合はレバーを戻すと同時にアクセレレーターペダルを軽く踏めれば解放が容易にかつ速かに行われます。

エンジンブレーキで坂道を降りる場合は、アクセレレーターペダルを放して低速回転にしておき、イグニッションスイッチを切ってはいけません。もし、スイッチを切ると燃焼しないガソリンがクラシクケースに入りオイルを薄めるため各部の摩耗を早める結果になります。



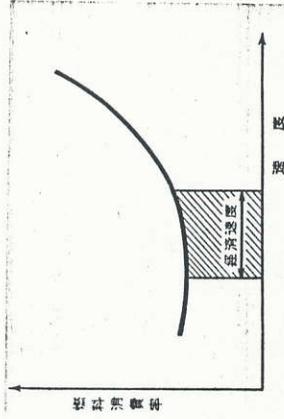
経済運転

車を運転する場合、その取扱いいかんによって経済的に大きな差違が生じます。特に燃料の消費量は道路および使用条件によって異なってくるため、常につきまつの事項を守って運行することが肝要です。

レーシングや急激な加速を慎む。
発車の際あるいは走行中にアクセルレターペダルを再三急激に踏込んだり、必要でないときに加速したり、エンジンをレーシング（空ふかし）させたりするとそれだけ燃料を浪費することになります。

高速での運行を避けて経済速度で走行する。

燃料の消費量は高速になるほど増加し、また反対に速度を極端に落したからといって、燃費が少なくなるものでもありません。経済速度は④レンジで40km/Hですが、この速度でアクセルレターペダルを余り動かさない



でコンスタントに走行することが大切です。
できるだけ惰力を利用して、急ブレーキをかけない。
運転中はむやみにブレーキを使用することは必要以上に速度を出しているといえます。再三ブレーキをかけることは再三加速しなければならぬことになり、ブレーキ機構の損耗や

タイヤの摩耗を増大させるのみでなく、燃費を増加させることになり不経済です。

③必要に応じて適当に変速する。

登坂の場合などにはエンジンに大きなロードがかかり、④では大きい駆動力は望めません。したがってこのような場合には④に減速し、駆動力を増大して登坂することが肝要で、そうすることによってエンジンの疲労を防止するだけでなくエンジンの実力を十分に発揮させることができ、かつ燃料も経済的です。

⑤タイヤ圧は常に規定の圧力に保ちなるべく良い道を選んで走行する。

舗装路、砂利道、坂道など道路状況によって燃料の消費量が異なりますが、特に悪路や坂路は車を痛めますからできるだけ避けた方が得策です。

⑥チヨークの乱用は慎む。

チヨークの乱用は燃料の消費量が増加するだけでなく、オイルを薄めてエンジン各部の摩耗を早めます。

⑦エンジンその他の調整を正確にしておく。

車の寿命が延長できるだけでなく、事故が未然に防止できます。

- ☑ 長く停車するときはエンジンスイッチを切っておく。いったんエンジンを停めて、あらためて始動した方が燃料が経済的です。アイドリングは案外燃料を消費します。
- ☑ エアークリーナーを頻繁に清掃する。
(エアークリーナーの項参照)
- ☑ 潤滑油の選定および交換。
(指定オイルの項参照)

新車の乗りならし運転

車の寿命は新車の取扱いによって大きく左右されます。いかに精巧な機械でも、その能力を十分に発揮させるためには人と機械の和合が必要であるわけで、車もその機構や性能を熟知している人に使用されてこそ、その本領を発揮します。あなたが車を知り、車があなただけを知るためにはある期間が必要です。この期間をいかに過すかによって故障を未然に防ぎ、車の寿命を延ぶことが可能です。その期間を1,000kmとします。この期間中には特に注意すべきのことを必ず守って下さい。

- ☑ エンジンをむやみにふかさないうで下さい。
- ☑ 高速運転や急ブレーキを慎んで下さい。
- ☑ ウォーミングアップを必ず行なって下さい。
- ☑ エンジンオイルの取替え (オイルタンク内の) 馴し運転はなめらかに仕上げられたしゅう動面からでも微細な金属粉を生じます。この金属粉はオイルの中に混入して、エンジンの内部を循環

☑ ガソリンの選定。

使用するガソリンの良否はエンジンの性能に重要な影響を与えます。したがってただオクタン価や比重でガソリンの良否を判定しないで、各メーカーのガソリンを使用して比較選定することも大切です。またハイオクタンのガソリンを使用条件によってハイオクタンのガソリンを使用するときは、必ず点火時期を調整しなければ効果は半減します。

し、エンジン各部の摩耗を促進しますから、500km走行後はオイルを抜き取り、新しいオイルと入れ替えて下さい。

☑ ギヤオイルの取替え
トランスミッションオイルも、走行500kmで抜き取り、新しいオイルと交換して下さい。

☑ 車両各部の締付箇所はよく点検して、ゆるみのないよう増締めをして下さい。

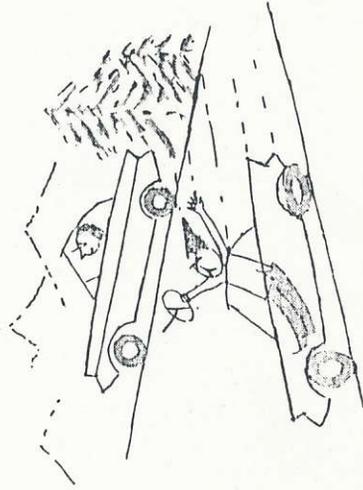
各部の点検と整備

車を毎日安全に運転し、寿命を延長させるためには、常に車の状態を点検して不具合な箇所を整備して最良のコンディションに保つことが大切です。

このような点検については、運輸省令で基準が定められておりますが、点検および整備はつぎの事項を守って必ず実施して下さい。なお、給油については、別表給油一覧表をご参照下さい。

定期点検表

点検箇所	点検内容	毎日	1ヶ月毎
かじ取り装置			
ステアリング	ホイールの遊び、ゆるみおよびガタ		
	タイロッドの連結部の摩耗および取付状態		
	ナックルの損傷の有無		
	キングピン軸受部のガタ		
制動装置			
フートブレーキ	ブレーキのきき具合		
	ブレーキペダルの遊びおよび踏代の具合		
	ブレーキホース、パイプその他より油漏れの有無		
ハンドブレーキ	レバーの引きしろおよびきき具合		
走行装置			
デイスクホイール	ハブホルトのゆるみ		
	フロント、リヤホイールベアリングのガタ		
	ホイールの振れおよび損傷の有無		
タイヤ	空気圧の点検、異常摩耗および損傷の有無		
懸架装置			
サスペンション	左右のたわみの不同および損傷の有無		
ショックアブソーバー	油漏れの有無		
	取付部のゆるみおよび連結部のガタ		
	機能の良否		



与
否
定
条
件

熱

車

は

し

増

点検箇所	点検内容	毎日	1ヶ月毎
動力伝達装置 シャフト	・スプライン部のガタ ユニバーサルジョイントのガタ		
電気装置 ディストリビューター	コンタクトポイントの焼損の有無および隙間 点火時期		
ダイナモーター	ワーニングランプの点滅		
バッテリー	電解液の量		
配線	ターミナルのゆるみ		
	電解液の比重		
	配線接続部のゆるみ 配線被覆の損傷		
灯火計器類	作動の良否		
スピードメーター	取付状態および損傷の有無		
バックミラー	吹鳴の良否		
警告指示器	作用の良否		
ウィンドライパー	作動の良否		
各ランプ	点滅の良否		

点検箇所	点検内容	毎日	1ヶ月毎
エンジン本体	フアンベルトのゆるみおよび損傷の有無 始動状況および異音の有無、排気の状態		
潤滑装置	圧縮圧力 弁間隙 オイルフィルター分解洗浄およびエレメントの交換 オイルプレッシャーワーニングランプの点滅		
燃料装置	オイル漏れの有無 ガソリン漏れの有無 ストレーナーの清掃およびエレメントの交換 エアクリナーエレメントの洗浄およびオイルの取替え		
トルクコンバーター	オイル漏れの有無 オイルフィルターの分解洗浄 サーモメーターの作動の良否		
その他	点検		
搭載工	点検		
携行品	点検		

指定オイル

車にとって潤滑油は血液に値し寿命を延長する点で貴重なものですから、使用するオイルの質および取替えについては特に注意し、各注油箇所には別表により定期的に注油して下さい。特にエンジンの潤滑油は使用状態によってはガソリンが混入して薄くなっていたり、また案外早く汚れている場合がありますから、このようなきは走行距離のいかんにかかわらず交換して下さい。また、気候の変化に従って適当なオイルを使用することを忘れてはなりません。

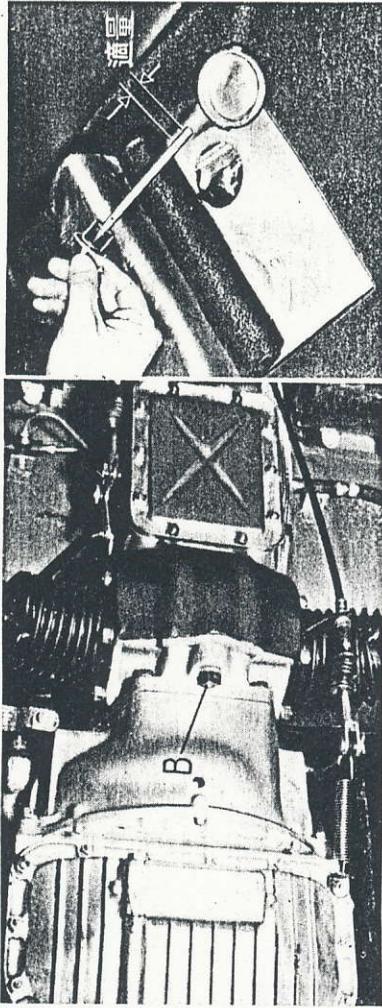
マツダ純正オイルは全国各地のマツダ販売店から発売しております。弊社では皆様のご愛用車には是非この特撰マツダ純正オイルをご使用になるようおすすめ致します。

指定潤滑給油一覧表

給油箇所	指定油種類	点検補給	新車油交換時期	油交換時期
エンジン(オイルタンク)	マツダ純正 アローモーターオイル			
30°C以上	SAE 40		第1回 500 km	第3回以降
15°C	SAE 30		第2回 1,500 km	3,000~5,000km毎
-10°C	SAE 20 又は SAE 20W	毎日油面点検		
-10°C以下	SAE 10W			
トランスミッション	SAE 80	2,000 km 毎	同上	第3回以降 7,500km毎
フロント、リヤ ショックアブソーバー	マツダ純正 ショックアブソーバー油	3,000 km 毎		
ブレーキオイルタンク	マツダ純正 ブレーキ油	1,000 km 毎	年 1 回	
エアーケリナー	SAE 30	埃の少ない舗装道路 5,000 km 毎		
		埃の少ない普通道路 2,000 km 毎		
		埃の多い悪い道路 1,000 km 毎		
スターチングモーター	SAE 30以下	10,000 km 毎		
トルコンオイルタンク	マツダ純正 トルコン油	毎日	20,000 km 毎	

トランスミッションの給油

ミッション下部のプラグ(B)をはずして排油します。
給油は左側後部シートを起してカバーをはずしゲージを抜いて給油します。
油量はゲージの赤線内にレベルがあれば適量です。



寺に注
入して
臭して
純正オ

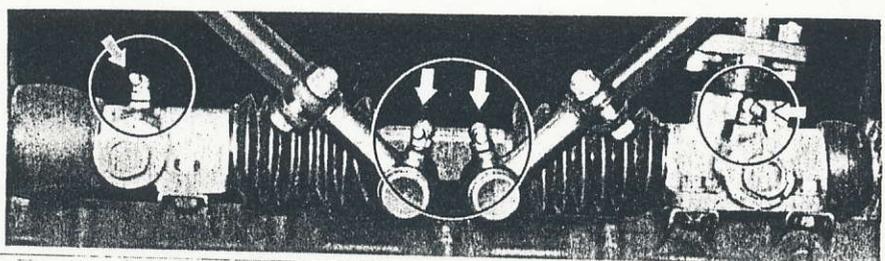
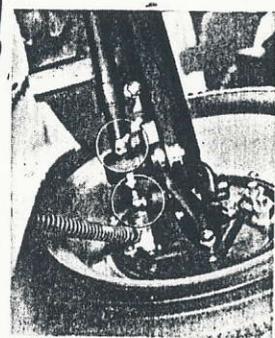
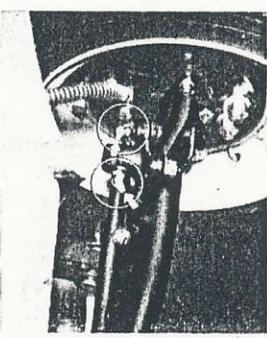
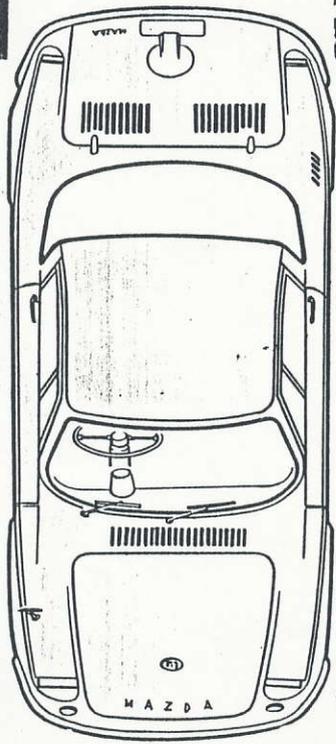
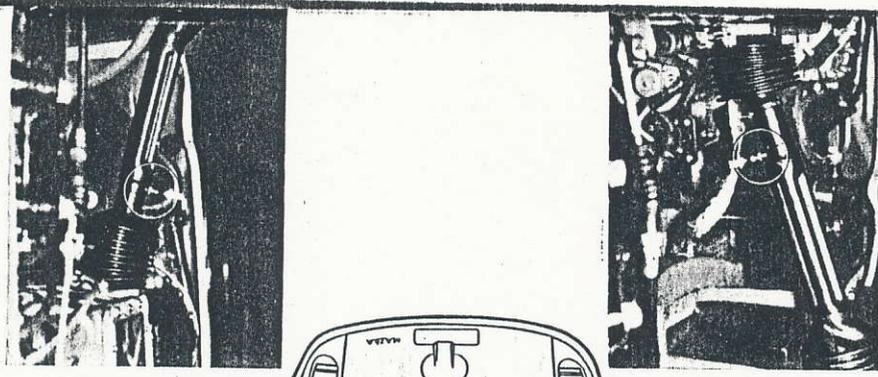
朝	
m毎	
m毎	

指定グリース給油一覧表

給油箇所	指定グリース種類	点検補給	油交換時期
ステアリングギヤードハウジング	カッブ	1,000km 毎	
タイロッド	〃	〃	
キングピン	〃	〃	
フロントホイールベアリング	リヂェーム	3,000km 毎	7,500km 毎
リヤホイールベアリング	ホイールベアリング	〃	〃
ハーフシャフト	カッブ	1,000km 毎	

備考 カップ 夏季 #190 冬季 #250 ホイールベアリング 夏季、冬季 #230

給油箇所一覽表



トルクコンバーター

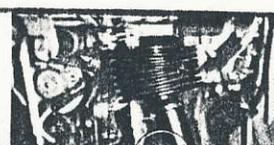
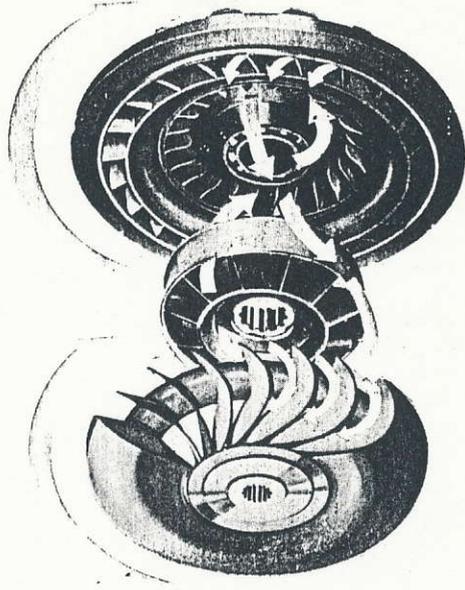
トルクコンバーター(流体変速機、俗にトルコンと略称されている)はポンプ、タービン、ステーターと呼ばれる三種の羽根車からなり、ポンプはエンジンから駆動されて流体に運動エネルギーを与え、タービンはその流れを受けてトルクを発生して負荷に動力を伝え、さらにステーターはタービンからポンプへ戻る流れを導き負荷に応じてトルクを倍加する作用を行います。したがって負荷に応じて変速が自動的に行なわれるわけで、従来の機械式の変速機に比べて数多くの長所をもっております。

トルクコンバーターを使用した場合には、つぎのような利点が挙げられます。

- 1 1 クラッチペダルが不要で、アクセルペダルだけで車速を自由に變えることができるので運転が極めて容易です。
- 2 2 如何なる場合でも、エンストやノッキングを起しません。
- 3 3 流体を介して動力を伝えるために、スタート時および変速時の衝撃がなく、エンジンのねじり振動が車に伝わらないので乗心地が非常によくなることもに動力伝達装置の寿命が著しくのびます。

取扱上の注意

- 1 1 油の補給、交換はマツダサービステーションにご下命下さい。
- 2 2 トルコン油は長時間使用すると劣化し、粘度変化や沈殿物の発生などが起りますから、20,000 km 毎に必ず純正トルコン油と交換して下さい。
- 3 3 オイルフィルターは2,000km毎に分解して、ガソリンまたは石油でエレメントを洗滌して下さい。
- 4 4 タンク内の油面がゲージの下側の目盛以下の場合、またパイピングの接手から空気が吸込まれた場合は、油が過熱し性能も低下します。
- 5 5 油が過熱すると劣化を早め、トルクコンバーターに悪い影響を与えますから、サーモメーターに注意して運転しましょう。



ガソリンストレーナー

ストレーナーのポディーにガソリン中の不純物がたまったら、ストレーナー上部のリングを廻してポディーをはずし掃除して下さい。エレメント（ろ紙）は7,500km走行毎に新しいものと取り替えて下さい。

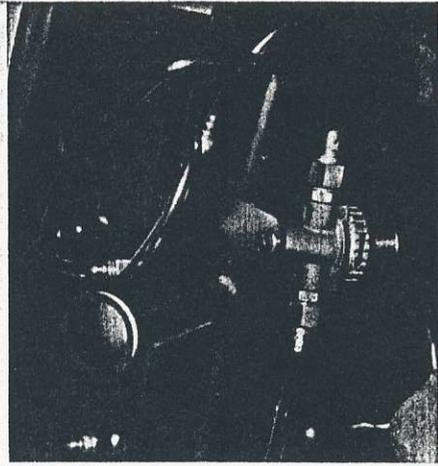
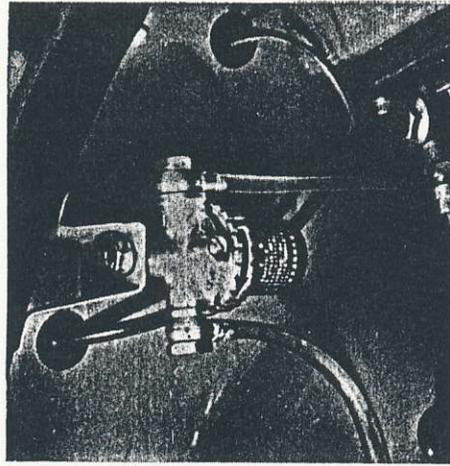
トルコン用オイルフィルター

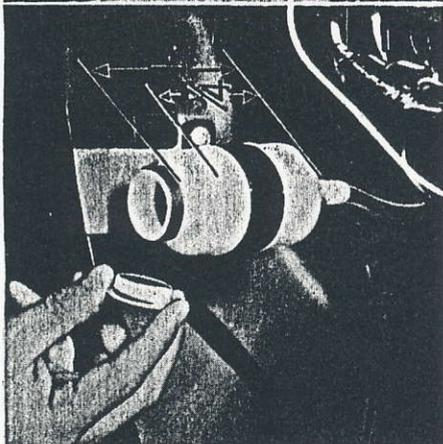
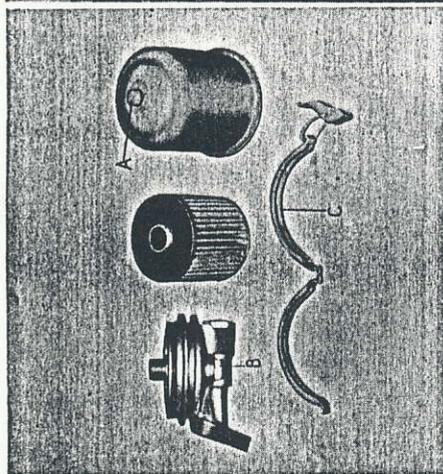
オイルフィルターにゴミがつかまると内部圧力の低下によって性能が低下しますから2,000km走行毎にガソリンストレーナーの分解要領で分解しガソリンまたは石油でエレメントを洗滌して下さい。組立の際は締付けを完全に、運転中に空気が吸込まれないように注意して下さい。

オイルフィルター

エレメント（ろ紙）の交換要領

エレメント（ろ紙）を交換するには、まずフィルターの上にあるエアープラグ（A）をはずし、つぎに下部のドレンプラグ（B）をはずしてオイルを排出します。排油が終わったらフィルター下部のクリップバンド（C）をはずしてフィルターケースを上方に取りはずしてエレメントを引き出します。エレメントは必ず純正部品を使用して下さい。エレメントを取り付ける前にガソリンが洗油でケースの内側を清掃し、取り替えが終わったらエンジンを2～3分間回転させればオイルフィルター内にオイルが充填しますからオイルタンクの油量を調べ不足分約0.5ℓを補給して下さい。エレメント（ろ紙）は5,000km走行毎に新しいものと取り替えて下さい。





ブレーキの保守

ブレーキは安全運行上最も重要なものですから日常十分その機構について注意しておかなければなりません。

フートブレーキは油圧式でつぎの点を特に注意しておきましよう。

「フートブレーキペダルの遊び
ペダルの遊びが普通 20mm くらいあることが必要でかつ十分踏み代がなければいけません。また走行中はペダルから足を離して下さい。

「ブレーキオイルタンクの油量

ブレーキオイルタンク内には常に常に以上ブレーキオイルがあることが必要です。

「ブレーキ油管

オイルパイプの接続が十分に油もれがないように気をつけなければなりません。ブレーキペダルの遊びが大きく踏み代または踏み応えがない場合は速かにもよりのサービスマステーションで点検調整して下さい。

ブレーキシューの調整

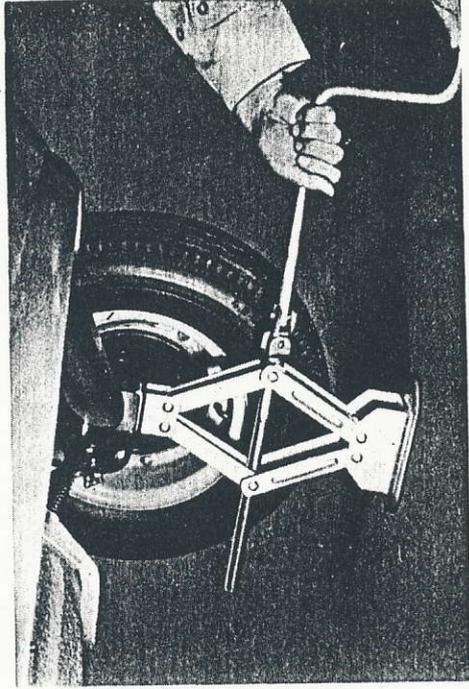
ブレーキシューの調整はアンカーピン(A)および(C)によって行ないます。アンカーピン(A)および(C)は偏心しており、アンカーピンナット(B)および(D)をゆるめて向って右側のピン(C)は時計方向に、左側のピン(A)は反時計方向に廻せばブレーキシューを拡張させることができます。ブレーキシューを調整する場合は、いったん両方のアンカーピンをゆるめ(シューを収縮させる)つぎに一方のピンの廻してシューを拡張し、ライニングがドラムに密着してピンがそれ以上廻らない位置からわずかに戻しながら(ゆるめながら)ドラムを手で廻し、徐々にライニングの摩擦抵抗がなくなり軽く回転するところでロックナットをピンが廻らないように注意して十分締め付けます。つぎに今一つのピンを同一要領で調整します。

ブレーキオイル

ブレーキオイルの良否の選択は制動効果に大きな影響をもっていますから粗悪油の使用は禁物です。マツダ号用としては適正油を指定し純正ブレーキオイルが全国マツダ号販売店に用意してありますから必ずこれをご使用になることをお奨めします。

ホイールの取はずし

ジャッキをかける前には必ずハンドブレーキが引いてあることを確認してトレリングアームにかけホイールのナットを弛めて下さい。
ジャッキアップおよびホイールナットの脱着にはスターチングハンドルを使用して下さい。



ディストリビューター

エンジンの回転が早くなると自動的に点火時期を早める遠心自動進角となっておりませんが、ハウジングを締付けてあるセットスクリュー (C) 2本をゆるめ、ハウジングを右方に廻すと点火時期が早くなります。反対に左方に廻すと点火時期が遅れます。

コンタクトポイントの調整

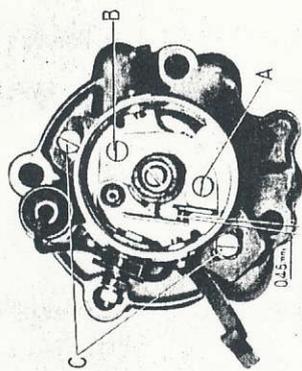
ポイントのすき間はカムがいっぱい開いたときに0.45mmに調整します。ポイントのすき間が過小のときは始動困難、走行中失火、ポイントの焼損などの故障を起し、反対に過大のときは高速時失火し、加速が効かなくなったりしますからすき間は定期的に点検し正しく調整して下さい。

ポイントの調整要領

- 1 まずローターを取り、カムの最高点にアームヒールが来るようにし、
- 2 つぎにアースポイントのセットスクリュー (A) をゆるめ、
- 3 アジャスチングスクリュー (B) を廻しながらシックスデグで正しいすき間 (0.45mm) をとります。
- 4 調整が終わったらセットスクリュー (A) をゆるまないように固く締めつけておきます。なお念のため最後に今一度すき間を点検しておきましょう。

スパークプラグ

- 1 スパークプラグはそのエンジンに最も適するものを選択しなければなりません。
- 2 クーベのスパークプラグは N.G.K. B-6H を指定しています。
- 3 プラグの火花間隙は常に正しく0.7mmに調整するとともにワイヤーブラシなどで丹念にカーボンを除去して下さい。
- 4 プラグの発火が悪くエンジンの爆発が不調のときは、プラグ以外にもディストリビューター、イグニッションコイル、その他コンデンサーなどが不良の場合があります。



バッテリーの保守

バッテリーは 12V、26AH (20時間率) のものが装着されています。

バッテリーはその取扱いいかんによって寿命に大きな影響を及ぼすのみでなく、バッテリーの性能いかんがエンジンの点火、始動に非常に関係しております。バッテリーの取扱いはずぎの点に注意して、バッテリーの能力を十分発揮させてやって下さい。

】バッテリーの上部は特に乾燥をよくし、かつ清潔にして下さい。
 】バッテリーの取付けは走行中の車体の振動によって動かないように、十分確実に固定させて下さい。
 】バッテリーのターミナルは接触をよくし、配線の取付けがゆるまないように十分締付けて下さい。

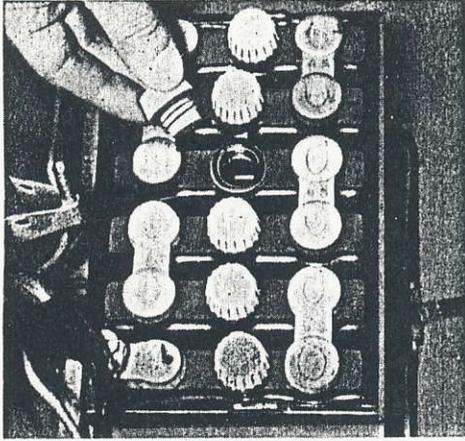
】バッテリーのターミナルはさびびないようグリースを塗付して下さい。

】バッテリー内の電解液の有無を常に点検し、減少しているときは蒸溜水を補充して下さい。

】バッテリー液の比重と電圧を時々点検、計測してその良否を調べて下さい。

】バッテリーは温度変化によってその容量が増減します。特に寒冷期はその影響が大きいので、常に完全充電状態にしておくことが肝要です。

】自動車を長期にわたって使用しないときは、バッテリーを車体から取りはずして補充電を行ない、完全充電状態にしておいて下さい。



故障の原因と点検箇所

□エンジンが始動しない。

- ヘッドランプが暗くエンジンが廻らない。
 - バッテリーが放電していませんか。
 - ターミナルがゆるんだり腐蝕していませんか。
 - ガソリンがキャブレターまでできていない。
 - フューエルポンプが正常に作動していますか。
 - パイプの継手が悪いかゆるんでいませんか。
 - プラグに火が飛ばない。
 - プラグが汚れたり絶縁が悪いのではありませんか。
 - ディストリビューターやイグニッションコイルに水がかかっていますか。
 - ローターやキャップが汚れたりひびが入っていませんか。
 - ポイントが汚れたり焼けていませんか。
 - コイルが断線したり短絡していませんか。
 - コンデンサーがパンクしていませんか。
 - 絶縁不良や短絡したところはありますか。
- その他
- タンクにガソリンが入っていますか。
 - ガソリンに水が混入していませんか。

オーバーフローしていませんか。

バルブ突上げなどで圧縮圧力が低下していませんか。

□エンジンに力がない。

- エアークリーナーが詰まっていますか。
- 点火時期が遅れていますか。
- 混合ガスが濃厚ではありませんか。
- キャブレターのメーンゼットが詰まっていますか。
- ブレーキがきいていませんか。
- サイレンサーが詰まっていますか。
- 圧縮圧力が低下していませんか。

□オイルブレッシャーワーニングランプがつく。

- オイルが不足していませんか。
- パイプの継手から空気を吸込んでいませんか。
- オイルフィルターが詰まっていますか。
- ランプのスイッチが悪いのではありますか。
- オイルにガソリンが混入して薄くなっていますか。
- 潤滑系統の途中でオイル漏れが多いのではありますか。

水 洗 い

ちよっとしたゴミやホコリは毛ばたきで十分ですが、水洗いは頻繁にした方が光沢を出すのに効果的です。水洗いは上から下へ洗ってゆきますが、直射日光はできるだけ避けて乾かないうちに柔かいセーム皮で水分を完全に拭いて下さい。

表面が乾いたらカーポリッシュを少量布につけて軽くこすり、古いワックスを取り除いた後にワックスを塗ります。ワックスを沢山つけますと輝くような光沢は出ません。

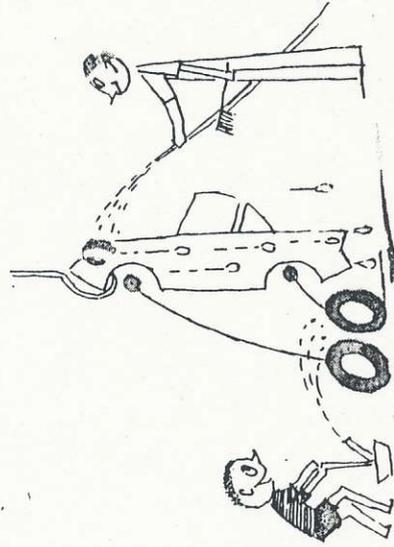
また少ないと塗装の寿命を縮めることになってしまいますから、塗って乾いたとき薄く白い膜が残る程度か、表面の光沢がかすかに残る程度塗ります。

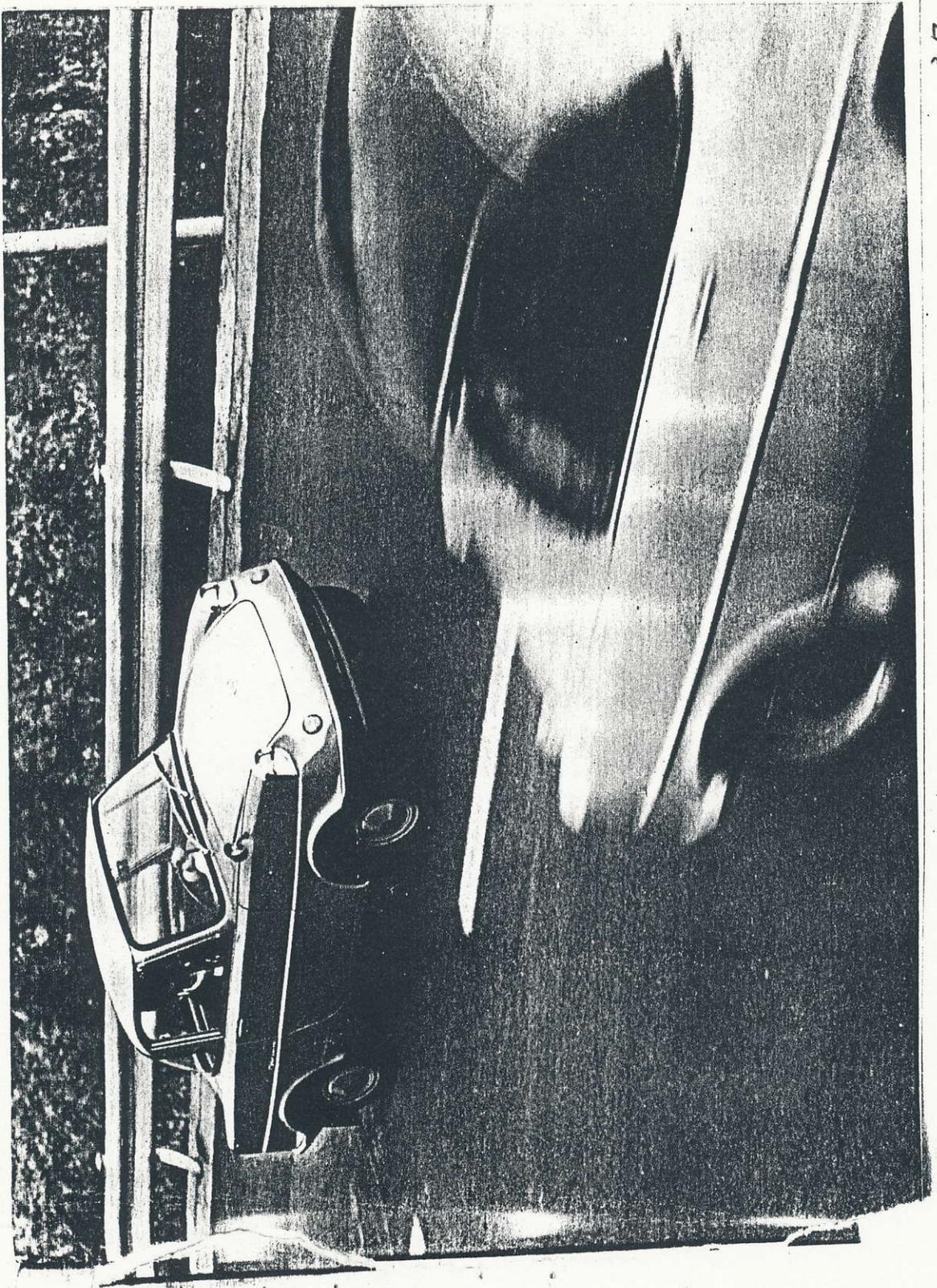
こうして塗ったワックスが乾いて白い粉にならないうちに一方から一直線に一定の速さでのばします。ワックスを十分のばして白く乾いてきましたら部分的に磨かず端から順次に磨くようにしましょう。

バッククリーンはアクリル樹脂を使用しておりますが、軽くて丈夫な反面、疵がつきやすい欠点があり、取扱いに当っては表面に疵がつかないよう注意が肝要です。

また、スクリーンの表面を乾いた布で擦ると、摩擦により帯電し、塵埃が附着しやすくなり疵の原因となりますから必ずスクリーンが汚れたとき、曇ったときは、車に付属してある“フクトール”を使用して下さい。

万一“フクトール”のないときは、1%湿度の石鹸水をつけた柔かい布、ネルで軽く拭いて下さい。

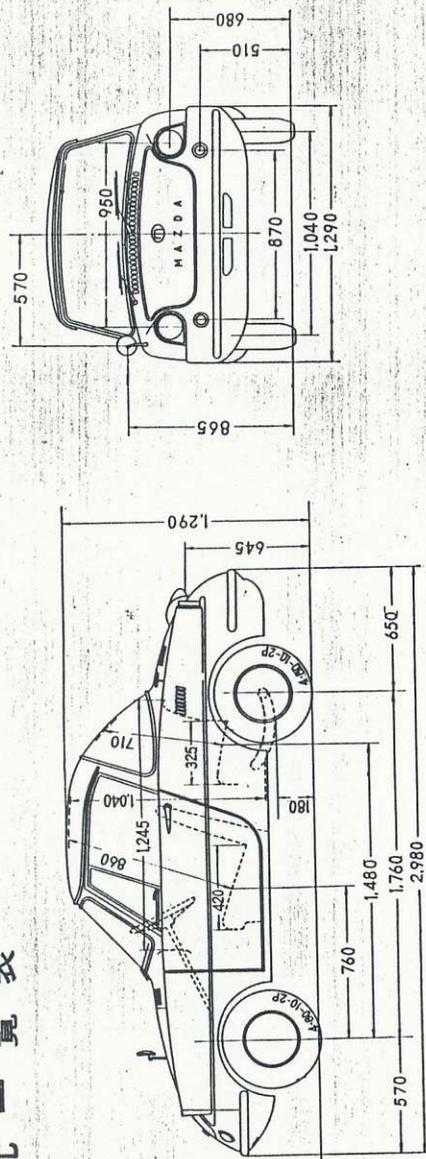




37

4

諸元一覽表



エンジン

型式	4行程 O.H.V 空冷 90°V 2気筒
行程	60×63
総排気量	356cc
縮比	8.0
圧縮力	9.5kg/cm ² /300r.p.m
最高出力	16 P.S./5,300r.p.m
最大トルク	2.2kg-m/4,000r.p.m
弁間	0.15mm (温間時)
点火時期	上死点前 10°
点火順序	1-2
点火プラグ	N.G.K B-6H
火花間	0.7mm

配電器	ポイント間隙	0.45mm
気化器	日立 DCA 264-1A	
ガス弁径	一次側 24φ 二次側 26φ	
ベシユリ一径	一次側 17φ×7φ 二次側 20φ×7φ	
オイルバス式エアークリーナー	油量	220cc
潤滑方式	ドライサンプ	
オイルタンク容量	2.8ℓ(公称)	
冷却方式	強制空冷式	
蓄電池	12V~26AH(20H.R)	
充電電動機	三菱 DW 170/12 FR	
始動電動機	三菱 MS 1.0/12 F1L	

トヨタ自動車株式会社

